

- 問1 足利義満によって本格化した日明貿易において、明から日本側へ与えられた「勘合」を用いた貿易の形式と背景について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2022年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 長崎の出島において、オランダ船と同様に厳しい制限下で行われた直接貿易であった。 | 2. 日本の朝廷が主体となり、明の皇帝と対等な立場で経済的利益のみを追求した。 | 3. 日本国王として明の皇帝に臣下の礼をとり、貢ぎ物を捧げる「朝貢貿易」の形式であった。 | 4. 幕府が発行した「御朱印状」を携帯することで、東南アジア各地の港へ入港を許可された。 |
|--|---|--|--|
- 問2 15世紀末にスペイン王室の支援を受け、大西洋を西回りに航海することでアジアを目指し、結果としてアメリカ大陸付近の島々に到達した人物として正しいものを選びなさい。 (2017年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------|-------------|---------|----------|
| 1. アメリゴ・ヴェスプッチ | 2. バスコ・ダ・ガマ | 3. マゼラン | 4. コロンブス |
|----------------|-------------|---------|----------|
- 問3 室町幕府において、足利氏の一門である有力な守護大名が交代で任命され、将軍に次ぐ最高の役職として幕政を統括した役職名を答えなさい。 (2023年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1. 老中 | 2. 管領 | 3. 執権 | 4. 評定衆 |
|-------|-------|-------|--------|
- 問4 室町時代の農村において、二毛作の普及や牛馬を利用した農耕の発展により農業生産力が向上したことを背景に、有力な農民を中心に形成された村ごとの自治組織を何といいますか。 (2020年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|------|------|
| 1. 五人組 | 2. 株仲間 | 3. 座 | 4. 惣 |
|--------|--------|------|------|
- 問5 13世紀から16世紀にかけての日本と海外との交流について、歴史的な展開の順序を正しく説明しているものはどれですか。 (2026年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 鎌倉時代にモンゴル帝国が襲来した元寇が起こり、その後、室町時代に琉球王国が中継貿易で繁栄し、戦国時代にポルトガル人との南蛮貿易が始まった。 | 2. 戦国時代にポルトガル人から鉄砲が伝えられた後、室町時代に琉球王国が東南アジアと貿易を行い、鎌倉時代に元寇による防衛体制が敷かれた。 | 3. 鎌倉時代に琉球王国が中継貿易の拠点として確立された後、モンゴル帝国の襲来を受け、戦国時代にキリスト教の布教を伴う南蛮貿易が始まった。 | 4. 室町時代に琉球王国が成立して中継貿易が盛んになった後、鎌倉時代に元寇が起こり、その影響で戦国時代にポルトガル人との交流が途絶えた。 |
|--|--|---|--|
- 問6 足利義満が明との貿易において、わざわざ「勘合」という合い札を導入し、それを照合させる仕組みをとった背景には、どのような事情があったと考えられますか。最も適切な説明を選びなさい。 (2016年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 東アジアで活動していた海賊である倭寇と、正式な貿易船を明確に識別する必要があったため。 | 2. キリスト教の布教を目的とするヨーロッパ船の来航を、厳しく制限する必要があったため。 | 3. 明の皇帝に対して、室町幕府が軍事的に優位であることを示すための儀礼として必要だったから。 | 4. 輸入品である生糸の価格が高騰するのを防ぐため、幕府が輸入量を一定に管理したかったから。 |
|--|--|---|--|
- 問7 室町時代、足利義政が中心となった東山文化では、禅宗の教えや美意識が武士の生活や文化に深く浸透しました。この時代に発展した、墨一色で自然や人物を描く「水墨画」や建築様式の「書院造」に共通する背景として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|---|--------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 極楽浄土への往生を願い、阿弥陀如来の慈悲を華やかな色彩で表現するため | 2. 簡素で精神的な深みを尊ぶ禅宗の教えが、武士の生活様式に取り入れられたため | 3. 豪華で華美な装飾を施し、権力者の威信を対外的に示すため | 4. 大陸との貿易を独占し、得られた富を用いて金箔を多用した仏像を作るため |
|---------------------------------------|---|--------------------------------|---------------------------------------|
- 問8 室町時代の外交と経済について、足利義満が明との貿易を開始した際の状況を説明したものとして正しいものはどれですか。 (2015年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|-------------------------------------|--|
| 1. 明の皇帝に臣下の礼をとる形で「日本国王」に封じられ、朝貢の形式で行われた | 2. 朝鮮半島に成立した高麗からの要請を受け、大陸との平和的な文化交流を目指した | 3. ポルトガル人との貿易を有利に進めるため、明を仲介役として利用した | 4. 有力な守護大名や博多の商人が主体となり、幕府の許可なく自由な貿易を推奨した |
|---|--|-------------------------------------|--|
- 問9 室町時代には各地で定期市が開かれ、物資の流通が非常に活発になりました。馬借や問丸といった運送・卸売業者がこの時代に大きく発展した背景として、最も適切な理由はどれですか。 (2020年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 二毛作の普及や肥料の改善によって農業生産力が高まり、各地で商品が取引されるようになったため | 2. 幕府が五街道を整備して参勤交代を制度化したことにより、人や物の往来が激増したため | 3. 遣明貿易（勘合貿易）によって輸入された銅銭が、幕府の手によって全国の農村へ強制的に配られたため | 4. 織田信長が楽市・楽座を実施し、商人の座の特権を廃止して自由な取引を奨励したため |
|--|---|--|--|
- 問10 室町時代初期において、三代将軍の足利義満が有力な守護を次々と討伐した背景には、幕府の権威を確立しようとする意図がありました。幕府がこのような守護への統制を行った最大の目的として、最も適切な説明はどれか。 (2025年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 内乱を未然に防ぐとともに、各地で強大な勢力を持つ守護を幕府の体制に協力させ、将軍の支配力を高めるため。 | 2. 守護を各地の国司の下に配置し直し、土地の支配権を幕府から朝廷へと返還する手続きを円滑に進めるため。 | 3. 守護の持つ軍勢力を解体し、公家による律令国家の仕組みを復活させて、中央集権的な政治体制を築くため。 | 4. 有力な守護に海外貿易の権利を独占させ、その利益を幕府が徴収することで、幕府の財政基盤を安定させるため。 |
|--|--|--|--|
- 問11 室町時代に発生した土一揆について、一揆の背景にある農民たちの目的と、幕府への要求内容を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2021年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------------|--|---------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 借金の帳消しを目的とし、幕府に対して徳政令の発令を要求した。 | 2. 特定の宗教への弾圧に反対することを目的とし、幕府に対して信仰の自由を要求した。 | 3. 年貢の減免を目的とし、幕府に対して領主の交代を要求した。 | 4. 米の価格高騰への抗議を目的とし、幕府に対して米の安売りを要求した。 |
|-----------------------------------|--|---------------------------------|--------------------------------------|
- 問12 足利尊氏が、倒幕の協力者であった後醍醐天皇と対立し、自ら室町幕府を開くに至った背景にある当時の武士たちの動向として、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 一族の団結を強めるために、長男がすべての所領を相続する単独相続の仕組みが一般化した。 | 2. 元寇の際の恩賞が不足していたため、鎌倉幕府の執権である北条氏を倒すことに全力を挙げた。 | 3. 建武の新政が公家を優遇し、武士の恩賞や土地の権利を軽視したため、武士の不満が高まっていた。 | 4. 座と呼ばれる同業者組合を結成し、商工業の利益を独占しようとする動きが強まった。 |
|---|--|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 日本国王として明の皇帝に臣下の礼をとり、貢ぎ物を捧げる「朝貢貿易」の形式であった。	日明貿易は、室町幕府の将軍（足利義満など）が明の皇帝から「日本国王」に封じられ、皇帝に対して貢ぎ物を届ける「朝貢（ちょうこう）」という外交形式をとっていました。勘合は明から日本側に交付され、日本側がこれを持参して明の港で照合を行いました。江戸時代初期に行われた「御朱印船貿易」は日本側（幕府）が許可証を発行する仕組みであり、勘合貿易とは発行主体や時代が異なります。
問2	答え 4 コロンブス	15世紀後半のヨーロッパでは、香辛料などの東方の産物を直接入手するため、海路によるアジアへの新航路開拓が求められていました。イタリア出身のコロンブスは、スペイン王室の援助を得て大西洋を西へ進み、1492年に現在のカリブ海にある島々に到達しました。彼はこの地をインドの一部であると信じていたため、先住民をインディアン（インドの人々）と呼びました。
問3	答え 2 管領	室町幕府では、細川氏・斯波氏・畠山氏の三家（三管領）が交代で将軍を補佐する最高職を務めました。鎌倉幕府で実権を握った北条氏の職名である「執権」や、江戸幕府で幕政を統括した「老中」との混同に注意が必要です。
問4	答え 4 惣	室町時代には、農業技術の進歩によって農民の自立が進みました。これにより、村の重要な事項を決定するための「寄り合い」を開いたり、独自の「村掟（惣掟）」を定めたりする、惣（惣村）と呼ばれる自治組織が作られました。選択肢にある「座」は商工業者の同業者組織、「株仲間」は江戸時代の商工業者の組織、「五人組」は江戸時代に農民を統制するために作られた制度です。
問5	答え 1 鎌倉時代にモンゴル帝国が襲来した元寇が起こり、その後、室町時代に琉球王国が中継貿易で繁栄し、戦国時代にポルトガル人との南蛮貿易が始まった。	日本の対外関係は、13世紀後半（鎌倉時代）のモンゴル帝国による「元寇」、14世紀から15世紀（室町時代）にかけてアジア諸国を結ぶ中継貿易で栄えた「琉球王国」、そして16世紀半ば（戦国時代）のポルトガル人来航による「南蛮貿易」という順序で展開しました。琉球王国は明への朝貢貿易を基盤としながら、日本や朝鮮、東南アジアとの橋渡し役として独自の地位を築きました。
問6	答え 1 東アジアで活動していた海賊である倭寇と、正式な貿易船を明確に識別する必要があったため。	当時、朝鮮半島や中国沿岸では「倭寇」と呼ばれる海賊集団が活動し、略奪行為を行っていました。明の皇帝は日本側に倭寇の取り締まりを求め、正式な貿易相手であることを証明する手段として勘合の持参を義務付けました。日本側（幕府）としても、独占的に利益を得るために、密貿易を行う倭寇を排除する必要があったという背景があります。
問7	答え 2 簡素で精神的な深みを尊ぶ禅宗の教えが、武士の生活様式に取り入れられたため	禅宗は「座禅」によって自分自身を見つめ直す修行を重視したため、その美意識は「無駄を省いた簡素なもの」を尊びました。これが、色を最小限に抑える水墨画や、質素ながら機能的な書院造の発展に繋がりました。選択肢にある豪華な装飾は安土桃山文化の特徴であり、極楽浄土への願いは鎌倉時代などの浄土信仰に関連するものです。
問8	答え 1 明の皇帝に臣下の礼をとる形で「日本国王」に封じられ、朝貢の形式で行われた	足利義満による勘合貿易は、明の皇帝に対して貢ぎ物を捧げ、その返礼品を受け取る「朝貢」という外交形式をとっていました。義満は明から「日本国王」に封じられることで、国内における権威を高めるとともに、幕府による貿易の独占と利益の確保を狙いました。
問9	答え 1 二毛作の普及や肥料の改善によって農業生産力が高まり、各地で商品が取引されるようになったため	室町時代の商業発展の根底には、農業技術の進歩があります。麦を裏作で作る二毛作が全国に広まり、牛馬糞や草木灰などの肥料の使用によって収穫量が増えたことで、自給自足を超えた余剰生産物が「商品」として流通するようになりました。これを各地へ運ぶ二毛作が高まったことで、馬借や問丸といった専門の業者が活躍するようになりました。楽市・楽座は安土桃山時代、五街道や参勤交代は江戸時代の事象です。
問10	答え 1 内乱を未然に防ぐとともに、各地で強大な勢力を持つ守護を幕府の体制に協力させ、将軍の支配力を高めるため。	室町幕府の成立当初は南北朝の動乱が続いており、将軍の権力基盤は極めて不安定でした。山名氏や大内氏のように複数の国を支配する有力な守護は、時として幕府を脅かす存在となりました。足利義満は、明徳の乱や応永の乱などを通じてこれら有力守護の勢力を削減することで、幕府内部での内乱を防ぎ、守護を幕府の統制下に置くことに注力しました。これにより、各地の守護が幕府の秩序に従い協力する体制を築き、将軍を中心とした安定的な統治を目指しました。
問11	答え 1 借金の帳消しを目的とし、幕府に対して徳政令の発令を要求した。	室町時代の農民は、凶作や重税によって膨らんだ借金に苦しんでいました。そのため、彼らは団結して土倉などを襲撃するとともに、幕府に対して借金を無効にする「徳政令」を出すよう強く求めました。1428年の正長の土一揆では、実際に幕府が徳政令を出さないまま、各地で借金の踏み倒しが行われるなどの社会現象となりました。
問12	答え 3 建武の新政が公家を優遇し、武士の恩賞や土地の権利を軽視したため、武士の不満が高まっていた。	後醍醐天皇が行った建武の新政は、理想的な天皇親政を目指したものでしたが、実際には土地の所有権を巡る裁判が混乱し、軍功を挙げた武士への恩賞も不十分でした。尊氏はこうした不満を持つ武士たちの期待を背負って挙兵し、幕府を開くこととなりました。